

地域医療へ貢献目指し人材育成



中津胃腸病院 院長

深野 昌宏氏

開院から43年。消化器を中心とした診療と緩和ケアを行う。昨年も、新型コロナウイルスの感染拡大に神経を使った。「地域の医療を守るため、自分たちができることは精いっぱいやる」という考えの下、一般診療と動線を分けた発熱患者専用の外来を設置し、患者の診察に当たった。

陰圧装置を置いた専用病棟での軽症・中等症患者の受け入れも継続。感染を広げない対策の徹底に心を砕いた。「毎朝、地域の病院を結んだオン

ライン会議に参加し、新型コロナウイルス対策の連携を図った。発熱患者は1日に数十人来ることもあり、対応に追われた。休日返上の状態だった看護師やスタッフはさぞかし大変だったと思う」と労苦をねぎらう。

昨年2月、救急処置室を新設し、救急患者の受け入れに可能な限り対応する体制を整えた。2021年10月～22年9月の手術数は200件で、特に肛門疾患の手術数が増えたという。「CTやX線透視装置など新しい機器の導入や内

視鏡室の増設など、検査体制の拡充を進めたため手術件数が増えたのでは」と分析する。

22年10月現在、消化器外科を担当する医師が自身をはじめ5人、訪問診療を担当する医師が2人在籍。看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、事務職員ら計194人が従事する。

病院運営に欠かせない人材の発掘と確保、育成に重点を置く。その強化のため昨年、経営企画・管理を担う「企画戦略室」を設置し、院内外での活動

を活発化させている。また、高齢化が進む中で転院搬送や訪問診療での必要性を考慮し、自前の救急車を配備した。

「訪問診療と緩和ケアの連携を強め、患者さんの希望に寄り添う体制を目指している。訪問診療・訪問看護の増加や病院の改築などを見据え、医療、介護、在宅、緩和ケア、リハビリテーションまで切れ目なく対応できるようにして、地域包括ケアシステムを推進したい」。今年もスタッフが一丸となって、地域に貢献する医療を考え続ける。

病院DATA

●診療科目

外科・消化器外科・内科・消化器内科・肛門外科
リハビリテーション科・疼痛緩和内科
麻酔科(深野昌宏・滝口哲)

●診療時間

平日／9:00～12:00、14:00～17:30
土曜／9:00～12:00

●休診日

土曜午後、日曜、祝日

※急患の方はこの限りではありません



救急患者の受け入れ体制を整備



医療法人社団 中津胃腸病院

中津市大字永添510番地
TEL0979-24-1632
<https://n-icho.or.jp>

